

# 第4期中期目標期間(令和3年度)実績報告

<p style="text-align: center;">令和3年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>	<p style="text-align: center;">令和3年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>
<p>(1)入学者の確保 ①-1 ・福井県下の中学校、滋賀県・石川県の入試実績のある中学校には、在学生及び卒業生の近況報告をし、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。さらに、HPの学校紹介動画を配信する。</p>	<p>(1)入学者の確保 ①-1 ・4月から5月にかけて、入試制度の変更について、福井県教育委員会、福井県内中学校60校を訪問し、説明と理解を求めた。 ・6月下旬から7月にかけて、福井県:72校、滋賀県:38校、石川県:9校の中学校訪問を行い、入試について、在校生、卒業生の近況、本校の現状を説明した。</p>
<p>①-2 ・中学生(女子中学生を含む)及び保護者、中学校教員等を対象としたオープンキャンパスを9月に2日間開催する。さらに10月～11月に中学生(女子中学生を含む)及び保護者、中学校教員等を対象とした入試説明会を開催する。各中学校の高校説明会等に積極的に参加する。 ・本校カレッジガイド及び学校紹介リーフレットを福井県・滋賀県の全中学校に配布、さらに、石川県及び京都府の一部の中学校にも配布し、加えて地元メディア、新聞等を通じての広報活動を行う。</p>	<p>①-2 ・9月18、19日にキャンパスツアー2021を開催し、中学生が325名、その保護者が285名参加した。 ・入試説明会を本校、福井県各所、滋賀県において開催し、参加者は、中学生245名、保護者260名、教員59名であった。高校説明会には、16校の中学校に参加した。 ・カレッジガイドを福井県:1,039部、滋賀県:266部、石川県:46部、その他の県13部、学校紹介リーフレットを福井県:8,933部、滋賀県:5,218部、石川県:1,063部、その他の県13部配布(送付)した。さらに、福井新聞と日刊県民福井に入試制度の変更に関する情報を6/22に掲載した。</p>
<p>②-1 ・本校オープンキャンパスなどで、説明役の学生に女子学生を積極的に登用し、中学生(女子中学生を含む)その保護者に優秀な女子学生の存在を知らしめ、広報する。</p>	<p>②-1 ・9月18、19日に開催したオープンツアー2021において、57名の女子学生が各学科実験補助学生、交流コーナーの学生、プラカード学生として参加した。</p>
<p>②-2 ・入試説明会の折りに、本校に在学している留学生の活躍の様子を説明する。</p>	<p>②-2 ・中学校主催の高校説明会において、留学生に関する活動を説明した。</p>
<p>③ ・多様な入学者を確保するための入試方法について検討する。</p>	<p>③ ・推薦選抜による募集人員を各学科28名に増員した。</p>
<p>(2)教育課程の編成等 ①-1 ・本科において、情報基礎の共通化の導入の検討と、数理・データサイエンス科目の導入のための教育課程の検討を行う。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、学科再編と連動させ、引き続き本科関係部会・委員会と検討を重ねる。具体的な専攻科改組案の作成段階に至った際には、法人本部の関係部署と連携をとり、指導助言を受け進める。</p>	<p>(2)教育課程の編成等 ①-1 ・本科教育課程に関しては、WGにおいて1年生の授業内容について検討をし、次年度から実施する。また、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に申請予定である。さらに、本校独自のデータサイエンス教育プログラムを次年度検討する。 ・本校の強み・特色を活かした専攻科充実策については、年度末に本科及び将来計画に関する関係部会・委員会での提言を受けた。この提言を踏まえ、今後、具体的な専攻科改組案等の作成段階に至った際には、本科はもとより、法人本部の関係部署と連携をとり、指導助言を受けつつ進める。</p>

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

①-2  
 ・専攻科と大学の連携教育プログラム構築にあたって、前提となる双方のニーズや連携教育プログラムによってもたらされる双方のメリット等を精査する。新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、感染症等でも揺るがない連携のあり方を論点とした検討を加える。また、社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に資するインターンシップについては、これを貴重な共同教育機会として扱い、感染症拡大防止に配慮しつつも、その学びを止めないよう策を講じる。共同教育については、後期「創造デザイン演習」において、地元企業と連携した課題解決型学習(PBL)を取り入れる予定である。この際のテーマに、地元の特徴を反映させることを想定している。  
 ・本科では、4年生全員参加を前提としてインターンシップの受け入れ先の確保を目指す。専攻科では1年生全員をインターンシップに参加させるが、特別研究指導教員が研修先を斡旋することで、より研究に関連した内容や、キャリア形成に繋がる内容の研修を目指す。  
 ・インターンシップ中は、研修先で研修日誌のチェックや、コメントをしていただくことにより、研修先と連携した共同教育を行う。  
 ・インターンシップ後は、報告書の作成、報告会を実施する。また、専攻科生の報告書は研修先にもチェックしていただく。

①-2  
 ・専攻科と大学の連携教育プログラムの構築についてはコロナ禍の影響もあり議論が進んでいない状況であったが、年度末になって関連会議において学校全体の未来戦略に関する具体案が示された状況にある。今後は、この提案を精査し、専攻科充実策を含めた専攻科と大学の連携のあり方について議論を進める。新型コロナウイルス感染症の影響で海外インターンシップについては昨年度に引き続き断念した。しかし、通常のインターンシップ(国内)については社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に資する貴重な共同教育機会と捉え、一定の制約を設けて感染症拡大防止に配慮しつつ、学びを止めることなく対象学生全員が対面で実施(一部オンラインで実施)できた。共同教育については、福井県の支援を受けながら、後期「創造デザイン演習」において、地元企業2社と連携した課題解決型学習(PBL)を実施した。  
 ・専攻科1年生インターンシップ  
 全員参加で対面・オンラインで実施した。対面型インターンシップは新型コロナウイルスの影響を避けて確実に実施するため、県内に限定して実施した。主に課題解決型の内容とし、研修先と連携した共同教育を行なった。日誌のチェック、コメントをいただき、さらに、報告書は研修先にチェックしていただいた。報告会を10月に実施した。  
 ・本科4年生校外実習(インターンシップ)  
 原則全員参加で対面・オンラインでの実施を準備したが、新型コロナウイルスの影響で実施直前に対面での実施期間が短縮されたり、オンライン実施に変更となった場合、中止となった場合があった。実施期間の短縮や中止となった学生に対しては、キャリア支援室で「業界研究セミナー」を企画し、本校OB・OG協力のもと、オンラインで3日間実施した。校外実習の補完とすることでなく進路選択に向けた準備を行なった。校外実習中は、研修先での日誌のチェック、コメントをいただき、研修先と連携した共同教育を行なった。校外実習の報告書が作成された。また、報告会を学科毎に10月に実施した。

②-1  
 ・海外の教育機関との交流を推進する。  
 ・様々なコミュニケーションツールを利用した各種海外研修プログラムの充実を図る。

②-1  
 ・12月に行われた日本・マレーシア若者リーダー交流in福井に本校学生5名が参加。事前研修には本校教員も1名オブザーバーとして参加。

②-2  
 ・イングリッシュカフェ(英語科と共同開催)や交流会などを実施する。

②-2  
 ・4/17および10/2にテキサス大学オースティン校とオンライン会議システムを利用し交流を行った。其々、数名の日本人参加者があった。

③-1  
 ・高専体育大会やロボコン、プロコン、デザコンなど各種競技・コンテスト、地域と連携したプロジェクトなどへの積極的な参加を奨励する。  
 ・今年度主管となる高専ロボコン2021東海北陸地区大会を円滑に運営する。  
 ・継続的に行っている「福井高専キャンパスプロジェクト」を実施することで、企画立案と実践ならびに報告に至る一連の能力の涵養を図る。  
 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図る。  
 ・地域性の高いマグネットコンテストを継続的に開催する。  
 ・福井高専ビジネスアイデアコンテストを実施する。

③-1  
 ・第2回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2021において、福井工業高等専門学校チームが最優秀賞を受賞した。  
 ・少林寺拳法部が、令和3年度福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会選考会(5月)を勝ち抜き、北信越高等学校総合体育大会(8月)に2名、令和3年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会(8月)に1名が出場した。  
 ・ソフトボール部が、高等学校春季総合体育大会福井県予選(6月)の第2代表決定戦を勝ち抜き、令和3年度全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会(8月)に出場した。  
 ・水泳部で、高等学校春季総合体育大会福井県予選(6月)を勝ち抜いた1名が、令和3年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会に出場した。  
 ・第56回北陸地区高等専門学校体育大会は6月から7月にかけて開催されたが、本校で直前にコロナ患者が出たことなどもあり、一部競技(陸上、男女バレーボール、卓球、女子バスケットボール)が出場を辞退した。同体育大会では、女子バドミントン、ハンドボール、水泳が全国大会出場を決めた。また、全国高専体育大会サッカー選手権予選北信越大会は7月10日から11日にかけて開催され、福井高専が優勝し、全国大会出場を決めた。しかし全国大会は一部の競技が、コロナ禍の影響もあり、12月以降に延期となった。  
 ・12月に行われた全国高専体育大会では、バドミントン女子個人で3位入賞。またハンドボールも3位入賞。水泳部では、男子100m自由形で大会新記録で優勝、男子100m平泳ぎでは準優勝、男子200m平泳ぎでは4位に入賞した。  
 ・高等専門学校プログラミングコンテスト全国大会は、10月9日から10日にかけて、オンラインで開催された。福井高専からは3チームが参加し、課題部門では敢闘賞とさくらインターネット企業賞を、自由部門では特別賞とトヨタシステムズ企業賞を受賞した。  
 ・アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト2021東海北陸地区大会は、10月24日(日)にオンラインで開催された。9キャンパスから全17チームが出場した。福井高専からは2チームが出場したが、残念ながら入賞は逃した。  
 ・全国高専デザインコンペティション2021は12月4日に開催され、福井高専チームはAMデザイン部門で、審査員特別賞を受賞した。  
 ・全国高専英語プレゼンテーションコンテストは1月22日に開催されたが、本校チームは本戦に出場できなかった。  
 ・福井高専キャンパスプロジェクトは2期に分けて募集が行われた。全部で6件、総額647,982円分が採択され、2月に報告会を実施した。  
 ・1月22日に開催された第55回福井県吹奏楽アンサンブルコンテストの大学枠にて、本校吹奏楽部が銀賞を受賞した。

<p style="text-align: center;">令和3年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>	<p style="text-align: center;">令和3年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>
<p>③-2 ・学生のボランティア活動を推奨するため、活動機会の情報を提供する。毎年実施しているクリーン大作戦や、昨年度実施できなかった保育ボランティアなどの活動を継続的に奨励する。 ・学生による顕著なボランティア活動に対する表彰制度を積極的に周知する。</p>	<p>③-2 ・10月15日(金)午後より、クリーン大作戦を実施した。2コースに限定し、鯖江駅近辺までの通学路と、学校周辺のゴミ拾いを、学生会の厚生部門12名のみで行った。</p>
<p>③-3 ・トビタテ！留学JAPANに学生を応募させる。 ・ISTS2021に学生を応募させる。</p>	<p>③-3 ・トビタテは2021年度は新規募集なしのため応募できなかった。 ・ISTS2021は本年度本校学生から参加はなかった。</p>
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。</p>	<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領では「博士の学位を有する者」という項目を掲げている(着任日までに取得できなかった場合は、任期付となることを併記)。令和5年度末退職予定者の早期補填を目的とする専門科目の公募については、採用辞退が生じたため、継続して公募を実施する。</p>
<p>② 企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の利用を働きかける。</p>	<p>② 学内会議の場で制度について説明を実施し、各学科、一般科目教室に対し希望の有無の確認を実施するとともに、制度活用時の教員人員枠の状況についても検討を実施した。しかし、令和4年度については制度活用の希望はなかったため、今後も教員人員枠を十分に確認しながら制度の周知、及び活用希望の有無について、働きかけを継続する。</p>
<p>③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、相談しやすい環境の維持に努めると共に、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境を改善する。</p>	<p>③ ・労使協定により1年単位の变形労制を締結し、業務の繁忙や生活サイクルに応じた勤務時間制度の活用を職員に促した。 ・機構本部主導で実施の同居支援プログラム、高専間異動希望制度について、人事労務係を通じ教職員に十分周知した。 ・物質工学科(新)棟の1階の女子便所は、和式トイレ(2か所)となっているので、そのうちの1か所を洋式トイレへの改修を実施し、女子学生・女性教職員の修学・就業上における施設環境を整備した。</p>
<p>④ 外国語の授業では、ネイティブな教員をさらに増やすことを検討する。</p>	<p>④ ・本年度から外国人女性1名を英語教員として採用した。授業の状況もすこぶる良好である。</p>
<p>⑤ 高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して、人事交流情報について周知するとともに、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供する。</p>	<p>⑤ ・高専と技科大間の人事交流などについて学内に積極的な情報周知を図った。</p>
<p>⑥ ・本校教職員が講師となるFD講演会を開催し、教職員の資質向上に対するモチベーションの涵養を図る。 ・外部講師を招へいたFD講演会やFD研修会を企画開催する。 ・新任教員や昇任した教員を対象とする研修プログラムを企画実施する。 ・全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。 ・アクティブラーニング等に関する研修会や研究会に参加し、ブロックや地区の高専との情報共有を図る。</p>	<p>⑥ ・6/15、9/10に本校カウンセラーの細田先生に講師をお願いし、「アサーショントレーニング講演会」を実施した。 ・9/13に地域連携テクノセンターと共催で、本校リサーチアドミニストレータ(産学連携担当)の南保氏を講師に、「令和3年度地域連携、共同研究に関するFD研修会」を実施した。 ・4/27、5/24、7/30、9/14、12/2、2/1に、新任・昇任教員研修プログラムを実施した。9/14はTPチャートを作成した。 12/2、2/1は先輩教員との懇談および「ショートプレゼン」を行った。 ・6/10、9/29、3/22に第3ブロックAL推進研究会にセンター員が参加し、センター会議で報告した。 ・10/15に近藤氏(リアセック)を講師とした、(2020年度の)PROGテストの教員向け解説会を行った。 ・3/10に橋本氏(リアセック)を講師とした、(2021年度の)PROGテストの教員向け解説会を行った。 ・3月に予定していた、TPチャート作成WS、TP作成WSはコロナの影響により中止となった。</p>
<p>⑦ 教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員表彰対象者として推薦する。また、非常勤職員を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。</p>	<p>⑦ ・機構本部主導の教員顕彰では、厳正な学内審査のもと、職務に精励し功績が顕著な者を対象者として推薦した。また、校内でも校長による表彰制度を設けており、教育、課外活動指導、研究、地域連携、事務改善等幅広い職員を表彰して勤務意欲の高揚、職場環境の活性化を図った。</p>

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

(4)教育の質の向上及び改善  
①  
・キャリア教育の一環の初年次教育として、ようこそ1年生、キャリア説明会、学科再選択制度説明会等を実施する。  
・学習支援室を立ち上げ、組織的に成績不振の学生をケアする仕組みを作る。  
以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。  
【機械工学科】  
・アドミッションポリシーについて記載内容を検討する。  
・コロナ禍による遠隔授業の影響で当初計画から削除した低学年の実習内容について、達成度の自己スキル評価が実施できるように次学年時の実習内容に盛り込む。  
・達成度の自己スキル評価の実施を継続し、学生の学習に対する目的意識の向上を図るとともに、必要に応じて改善を検討する。  
・機械工学実験の実質的な成果の向上のため、令和元年度に内容と実施方法を変更したが、さらに改善を進めて実施する。  
・グループワークや課題解決型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に実施し、学年進行に伴う効果的な科目配置や実施内容についての検討を重ねてきた。引き続き、学生が主体的に取り組むものづくり教育を推進する。  
・学科内における教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動の推進、及びそれらの活動内容の収集と情報の共有を図る。  
  
【電気電子工学科】  
・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法については、継続的に検討する。  
・令和3年度に、4年次まで対象とした実験スキル評価シートを用いてモデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価を実施し、5年次については次年度実施に向けて評価シートの作成を行う。  
・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、継続的に確認し、情報共有を行う。  
・CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握を継続的に行う。  
・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を継続的に実施する。  
・学科内のFD活動を推進するために電気電子工学科会議で継続的に検討し、学科内のFD活動内容の収集と情報共有を行う。  
  
【電子情報工学科】  
・学外のICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組を目指す。また、その成果を様々なコンテストや発表会で発表していく。  
・低学年における基礎能力(ライティング、リーディング、計算)の向上のための仕組みの検討、及びソフトウェア教育への比重を大きくすることの検討とともに、BYODの活用と授業改善、低学年でのBYODパソコンの活用に関する検討、利用機会の増加及びネットワークを活用した実験・研究環境の整備を行っている。  
・入試広報に関連して、学科パンフレット及び入試説明会資料の変更を行うとともにオープンキャンパスの学科紹介の方法を刷新し、学科ホームページの内容の充実を目指す。  
・学科の特徴をだすために、電子材料系科目を情報メディア応用系科目へのカリキュラム変更や、工学倫理系科目のカリキュラム導入を目指す。  
  
【物質工学科】  
・県内私立高校併願受験廃止や県立高校受験日前倒しにより予想される受験倍率低下への対策として、オープンキャンパス、ホームページ、配布用パンフレットの改善を継続する。また、小・中学生向けの公開講座や出前授業を重点的に促進する。  
・企業と連携したPBL導入や両技術科学大学並びに近隣大学との共同研究を推進する。  
・卒業研究指導の在り方を検討する(課題発見型を意識したテーマ選定の推進や卒業研究発表会における評価方法の見直し等)。  
・社会ニーズに即した学科が育成する学生像の検討を行う。

(4)教育の質の向上及び改善  
①  
・ようこそ1年生を、4月22日と7月20日の2回に渡り実施した。キャリア説明会を5月27日に実施した。学科再選択制度の説明会を10月25日に実施した。  
・学習支援室を立ち上げ、規則を制定した。TAバンクにTAとして登録した学生数は24名である。数学の補習は、14回開催され、延べ511名の学生が参加した。TAは延べ98名である。教員は延べ44名指導に当たった。低学年補習として、化学や専門科目等の勉強会を4回開催し、延べ79名の学生が参加した。TAは延べ33名、教員は延べ25名指導に当たった。物理の補習は、11回の補習を実施し、延べ113名の学生が参加した。指導した教員は延べ11名である。  
【機械工学科】  
・編入学試験に向けた高校3年生向けのアドミッションポリシーを変更した。  
・第3学年で実施している機械工作実習Ⅱの講義内容で、3次元測定器を用いた形状測定を盛り込んだ。  
・実験・実習系スキル評価シートを作成し、1~4年の機械工学実習、機械工学実験において自己スキル評価を実施した。学習に対する目的意識の向上を図り、科目担当者に求められる改善策などについて検討した。  
・MCC項目の達成を目指して5年生の機械工学実験Ⅱに制御系テーマ“制御シミュレーション”を導入した。  
・1年時の“専門基礎(ものづくり科学)、2年時のC言語基礎、3年時のC言語応用、メカトロニクス実習、4年時の知能機械演習、5年時の卒業研究においてグループワーク、PBL型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に実施した。  
・若手教員を中心に教員の質向上を目指したWG(ワーキンググループ)を組織し、学科教員を対象とした学生指導に係るFD活動「学科FD」を実施した。担任経験の豊富なベテラン教員から具体的な事例を紹介頂き、本校カウンセラーを講師に招いて、学生対応のコツについてノウハウの共有を図った。  
  
【電気電子工学科】  
・Webシラバスへ記載したルーブリックの確認及び評価方法については、電気電子工学科会議にて継続的に検討した。  
・令和3年度に、4学年までを対象とした実験スキル評価シートを用いてモデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の到達度評価を実施した。5年次については4年度実施に向けて評価シートを作成した。  
・電気電子工学科で実施しているアクティブラーニングの実施状況について、電気電子工学科会議にて継続的に確認し情報共有を年度末までに行った。  
・CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握については、計測工学分野について高専機構のCBTトライアルを冬休み中に実施した。  
・学習状況調査及び卒業時の満足度調査を年度末に実施した。  
・学科内のFD活動を推進するために電気電子工学科会議で継続的に検討し、学科内のFD活動内容の収集と情報共有を行った。  
  
【電子情報工学科】  
・4年電子情報の創造工学演習にて県内企業に勤めるOBの協力を得ながら学生を指導し、高専プロコン課題2チーム、自由2チーム、競技1チームにて応募し、10月9日、10日に開催された本選に3チームが参加し、自由部門特別賞、課題部門で敢闘賞の入賞し企業賞などを受賞した。  
・低学年では、レポート提出課題に苦勞する学生が多く見受けられることから、課題未提出の学生を集めたレポート作成の補講を実施し、一定の成果が得られている。  
・ソフトウェア科目を増やすために、4年に「情報メディア工学」をR4年4月より開講することとなった。  
・学科においてセキュリティ関連の実験のためのネットワーク専用回線を導入し、自宅からの卒用研究などに活用している。  
・入試広報では、学科パンフレットに各種コンテストでの入賞などの情報などの追記を行なった。また9月18日、19日に実施されたオープンキャンパスではコロナ感染対策を踏まえた説明方式の変更を行なっている。11月5日にはカレッジガイドの更新のための写真撮影を行い学科紹介に活用した。  
・学科の特徴を出すために4年の「電子材料デバイス」を削除し、「情報メディア工学」の新設シラバスを作成し、R4年4月からの開講を行う。  
・5年「工学倫理」を令和4年10月に開講するための学科担当部分のシラバスの作成を行った。  
  
【物質工学科】  
・5月に入試説明会や学科紹介のイベント等に配布するための物質工学科パンフレットを更新した。5月にホームページの一部更新を行った(学科関連情報記載欄の追加、学科長挨拶並びに教員スタッフ記載欄更新)。9/17&18開催のオープンキャンパスでは、物質教員6名によるミニ講座タイムの追加拡充した。また物質工学科宣伝を兼ねた周期律表を印刷した下敷きを500部増刷し参加した小・中学生に配布した。  
・前期に計画されていた2つの物質工学科教員主催の公開講座は、コロナ自粛によりすべて中止となったが、7/29に福井市成和中学校科学部生徒31名を対象に、公開講座1件を実施した。また、明進小学校6年生161名に対し、中谷医工計測技術振興財団の助成で、県内小学生を対象としたふくい自学ノートコンテストを実施した。  
・タイヨー電子ならびにホクコンとのレタス栽培新技術開発の共同研究を実施している(企業連携PBL)。長岡技術科学大学とのリグニンの有効利用に関する共同研究を実施している。水耕栽培に用いる化学センサの開発に関して福井県立大学と共同研究を行っている。福井大学とウィルス検出法の開発や、尿酸センサの開発に関する共同研究を行っている。金沢大学とはラン藻を用いたバイオリファインリーに関する共同研究を実施するなど大学、企業との共同研究を積極的に行っている。

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

**【環境都市工学科】**  
 ・令和4年度からBYODを活用する科目についてシラバスの見直しを行う。  
 ・学科の教育、研究、社会貢献に関する将来構想と魅力向上策を立案するワーキンググループを設置し、教育の質の向上と改善のための実施内容を検討する。

**【数学】**  
 ・授業において既に導入しているICT活用およびグループ学習などを継続的に実践し、基礎学力の定着と主体的な学びを促す。  
 ・学生自身が主体的に学ぶ習慣を身に着けさせるために、引き続きWeb教材や授業動画などの学習環境を整える。

**【物理】【地学】**  
 ・昨年度まで行ってきた低学年成績不振者向けの補習を新たに設置される学習支援室の活動に移行、スケジュールの効率化や他科目との連携を進める。  
 ・3年生は夏季休業中の総復習を行い、CBTにより学習の理解度を検証する。  
 ・4年生の実験器具のメンテナンスや修理を行い、実験環境の改善を行う。  
 ・福井県内想定される災害を、授業の中で紹介する。

**【化学】【生物】**  
 ・化学では今年度も授業中、問題集の問題をさせて、その日の授業内容を理解させるようにする。また、長期の休み中には課題の提出を実施し、学力レベルを維持する努力をする。生物についてはライフサイエンスのコアカリキュラムを中心とした講義内容に変えており、今後は、より興味も持たせるよう映像などを取り入れる。

**【体育】**  
 ・1～3学年の体育実技では、昨年度に引き続き、自己またはチームのパフォーマンスデータをICTを活用して分析させ、スポーツに関する知識や科学的理解を深める授業をアクティブラーニングの手法を取り入れながら実践する。  
 ・1学年の保健や4年生のショートレクチャー(生活習慣病予防)では、学習内容を身近な話題と関連付け、実践(行動)につながるような理解を深めるとともに、自己の健康・体力課題の抽出とその対策を考察するレポートを通じて、課題解決のための主体的な学びを促す。

**【国語】**  
 ・2年生の「手紙の書き方体験授業」、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を継続し、キャリア教育的取り組みの一環とする。  
 ・弁論大会などの学校行事、校友会誌の編集・発行にあたって、学生への指導を含めた支援を継続する。  
 ・文章を丁寧に読解するだけでなく、学生が主体となって臨める環境作りを行う。発表や議論、グループワークを通して、語彙力や表現力を育成する。  
 ・5年生の選択必修科目の授業において、日本語表現演習と言語文化特講を開講し、学生の言語運用能力を伸ばす授業を行う。

**【社会】**  
 ・新しいカリキュラムの完成年度である2022年度を見据え、社会科内各科目のそれぞれの到達目標や学習事項、レベル設定、教科書に関する教員間の議論を継続し、授業実践にあたっての課題を精査する。  
 ・2022年度に開講される「工学倫理」の具体化に向けて、昨年度立ち上げたワーキンググループにおける校内各所との協議を通じて、授業内容やシラバスを確定する。

**【環境都市工学科】**  
 ・学科の教育、研究、社会貢献に関する将来構想と魅力向上策を立案する2つのワーキンググループを設置し、学科の取り組みの質の向上と改善に資する10個のタスクを設定し、各担当者がその具体を考案した。その結果、3年生の実験実習におけるBYODの活用、オンラインを利用したi-Constructionの実務体験、資格学校と連携した二級建築士の受験対策講座の開講、技術士一次試験合格の単位認定化、学生の社会貢献活動に関する意識調査、学外のUAV飛行訓練実習フィールドの検討、新設される教務システムと連携するeポートフォリオの検討、学科公式Twitterの開設、Teamsを利用した各種情報のデータベースの整備がそれぞれ動き出した。また、学科ホームページでの学生や教職員の活動に関する情報発信を充実させ、学科パンフレットやカレッジガイドの内容を見直して、学科の広報に注力した。

**【数学】**  
 ・授業内でのICT活用やグループ活動は継続的に実践された。特に、5クラスの授業内で授業動画を学生に視聴させ、基礎学力の向上に務めた。来年度も引き続き主体的な学びを促す環境整備を進めていく。  
 ・適切な学習習慣を身につけるために、1年生および2年生の成績不良者及び希望者(平均30名程度)の補習(5月～2月の間で14回実施)を実施し、学生の数学力の向上に務めた。その結果、参加した学生の大半は、定期試験の成績が上がった。  
 ・申込のあった9名の学生を対象に数学検定の受験(2021年7月と2022年2月実施)を本校で実施した。各級の受検者数は準1級2名、2級4名、準2級3名であり、そのうち、2級1名と準2級3名が合格、2級2名が1次のみ合格した。

**【物理】【地学】**  
 ・低学年成績不振者向けの補習を通年で実施し、のべ、109名が参加し、平均点で7点の向上を見た。他科目の補習との調整作業を学習支援室に依頼し、スムーズな実施が可能となった。  
 ・3年生は夏季休業中に総復習を行い、知識の定着をはかった。  
 ・4年生実験器具のメンテナンスを行った。プリズム分光器3台の分解オーバーホールを、教育研究支援センターと共同で実施し、未稼働だった1台を復旧した。  
 ・自宅待機者に対し、一部の科目で定期試験をオンラインで実施した。  
 ・特に顕著な災害の因果を、内容に取り入れた。

**【化学】【生物】**  
 ・化学では、授業中に問題集を解答させて、その日の授業内容を理解させるようにした。また、長期の休み中には課題の提出を実施し、学力レベルの維持に務めた。生物については、いくつかのクラスで、授業内容により興味も持たせるように映像などを取り入れた授業を行った。

**【体育】**  
 ・陸上競技でのフォームを視覚的に理解する画像やその分析を通して動きの理解が深まり、自己の課題発見や問題解決に取り組む実践が行えた。チームスポーツでは、勝つための戦術をチームで考えるアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、チーム課題の解決に取り組む実践することができた。  
 ・自己の体格と体力の分析を通じて健康な生活や生活習慣病予防のための課題を発見し、克服するための計画を立案する従来のレポートに加え、コロナ予防策などの身近なテーマによる小課題を新たに課したことで現代社会を健康に生きるための自己課題がより鮮明になり、日常の運動実践の意義が理解された。

**【国語】**  
 ・2年生の「手紙の書き方体験授業」を7月に実施、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を4月から5月にかけて実施している。4・5年生の希望に応じて、就職面接や大学推薦に使用する作文の添削も行った。  
 ・10月15日に行われた弁論大会の講師と審査員を務めた。2・3年生の授業でも弁論大会と関連づけたディベートの授業を行った。校友会誌の発行にあたり、国語科教員3名全員が作文の選定にあたり、うち1名が査読者も担当した。  
 ・1年生では評論の構成・表現・客観性を分析するグループワークを行った。2年生では詩の解釈や評論に関する意見文を書かせた。3年生では文章読解後、グループで意見交換を行った。4年生ではプレゼンテーションを行った。これらの活動を通して、学生の語彙力や表現力を育成した。  
 ・日本語表現演習では、ディスカッションやプレゼンテーションなどの活動を通して、自分の考えを正しく聞き手に伝える能力を育成した。言語文化特講では、日本語学の知見をもとに学生自身の言葉を振り返る授業を行った。

**【社会】**  
 ・新しいカリキュラムの完成年度である2022年度を見据え、教科書の精選・決定を行い、授業内容を検討・構想した。次年度以降では、実際に問題なく運用されるか確認する。  
 ・2022年度に開講される「工学倫理」について、6月29日、9月15日、12月1日のワーキンググループ会議を通じて、各学科、教科と情報を共有しつつ、授業内容およびシラバスを確定した。次年度以降では、実際に問題なく運用されるか確認する。

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

【英語】  
・英語でコミュニケーションをするための基本的な知識の習得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と工業英語、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、より実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語学習や海外に対する興味を喚起するための支援を積極的に行う。

【専攻科】  
・専攻科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーについては、本科の改正を踏まえて再精査し、改正手続きを進める。  
・専攻科の授業については、本科と連動しながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しつつ、既存資産を最大限に活用し学びを止めない策を講じる。

【創造教育開発センター】  
・Webシラバス、ルーブリックの有効活用および、アクティブラーニング、遠隔授業などの教育実践に関して、教員への情報提供と環境整備を行う。  
・学際領域カリキュラムの実施と充実を図る。  
・新しいカリキュラム(工学倫理および情報教育)に関する準備と検討を行う。  
・CBTの実施。  
・授業評価アンケートのフィードバックと、教育改善へつなぐ方法の検討。  
・FD研修会の実施。  
・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しを行う。  
・創造教育開発センターとしての、学習支援の関わり方を検討。  
・PROGテストを二つの学年で継続的に実施することにより、学生に特性を理解させる共に、キャリア支援に繋げる。

②  
達成度評価及びその理由を各部署毎の最初に記載した自己点検・評価報告書を作成する。また、新型コロナウイルスに関する対応を冒頭に記載した令和2年度の自己点検・評価報告書についてはホームページで公表する。

③-1  
・4年生の学際科目のひとつである「プロジェクト演習」の内容を充実させる。  
・昨年度に引き続き、福井県協働プロジェクト「FAA学ぶなら福井応援事業(福井県版PBL支援分)」に応募する。この支援を受け、専攻科後期「創造デザイン演習」において地元企業と連携した課題解決型学習(PBL)を実施する。

【英語】  
基本的な英語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行った。  
1)低学年においては、文法項目の指導と日常的な話題を中心としたコミュニケーション活動、eラーニングなどを行った。高学年においては、プレゼンテーション活動、TOEIC対策演習、eラーニングなど、授業だけでなく授業外での学習にも配慮しながら指導を行った。  
2)全学年で共通の語彙学習教材を用いて、クラスの状況に応じて演習や試験を行いながら基礎学力の向上を図っている。

【専攻科】  
・専攻科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの改正にあたって、本科と連携して専攻科の教育理念を整理した。この上で、専攻科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを本科の改正を踏まえて再精査し、これらに関する規則を改正した。これらの作業を経て、本科と連携して教学マネジメントに係る体制の整備を進めた。  
・専攻科の授業については、本科と連動しながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しつつ、Teams等のツールを平時からも活用し、学びを止めないよう努めた。特に外部講師や企業等技術者より説明やアドバイスを受けるような場面では積極的にTeamsを利用した。入試を含めたイベントや会議においては密を避けるため大きな場所を利用するよう変更を加え感染防止に努めた。本科同様、専攻科入試においても全ての試験(本試験)に対応した追試験を設定した。

【創造教育開発センター】  
・学際カリキュラムについては、随時、担当者が打合せを行い、情報共有できている。  
・工学倫理および情報教育(数理・データサイエンス・AI)に関するWGを立ち上げ、其々に関して教育内容の検討、シラバス作成など、情報共有を行った。  
・CBTの今年度実施の領域について、確認を行った。12/20 から1/14 にかけて実施した。1年全クラスが数学、物理。2年全クラスが数学。3Eが数学、物理、専門(計測)を、残りの4クラスは数学と物理のみ。4年は専門領域で、4Mが製図、機械設計、力学、熱流体、材料を、4Eiが計算機工学、4Cが有機化学、4Bが建設をそれぞれ受験した。  
・10月に、前期終了科目および前期後期で担当者が代わる科目に対しての授業アンケートを実施した。  
・2月から3月にかけて、後期科目および通年科目の授業アンケートを行った。  
・6/15、9/10 に、本校カウンセラーの細田先生に講師をお願いし、「アサーショントレーニング講演会」を実施した。  
・地域連携テクノセンターと共催で、本校リサーチアドミニストレータ(産学連携担当)の南保氏を講師に、「令和3年度地域連携、共同研究に関するFD研修会」を実施した。  
・8/23 にサイバーセキュリティ人材育成事業(K-SEC)の数理データサイエンスワークショップに参加し、センター会議で報告した。  
・9/16 にCOMPASS5.0 AI・数理データサイエンス分野カリキュラム作成ワークショップに参加し、センター会議で報告した。  
・10/15 に近藤氏(リアセック)を講師とした、(2020年度の)PROGテストの教員向け解説会を行った。今年度のPROGテストは12/2、12/3 で実施。2/25 に3年生向けの解説会を実施した。(4年生向けの解説会はコロナの影響で中止) 3/10 に教員向け解説会を実施した。  
・授業評価アンケートのフィードバックと教育改善へつなげる方法の検討は継続。  
・「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しの検討は継続。

②  
・新型コロナウイルスに関する対応を冒頭に記載した令和2年度の自己点検・評価報告書を7月にホームページで公表した。また、令和3年度の自己点検・評価報告書では、達成度評価及びその理由を各部署毎の最初に記載するとともに、機関別認証評価における基準毎に毎年チェックできる仕組みを、本報告書を用いて校内で共有することとした。

③-1  
・「プロジェクト演習」において、Teamsを活用し授業を進め、県内の企業のエンジニア11名に最終発表に出席してもらい、学生にアドバイスをもらい、交流の機会を得た。  
・福井県協働プロジェクト「FAA学ぶなら福井応援事業(福井県版PBL支援分)」に応募し、採択を受けた。この支援を得て、専攻科後期「創造デザイン演習」において地元企業2社と連携し、現地を訪問して課題を把握した上で、その課題(6課題)の解決を図るものづくりを行う学習(PBL)を実施し、専攻科1年生25名(6チーム)が参画した。報告会(一部オンライン)には協働企業先2社及びFAAを所管する福井県から計7名に参加いただき、参加者からアドバイスを受けた。最終報告会以降に連携企業先2社と本年度の実施について振り返るとともに次年度の方針を協議する機会を持ち、連携を確認した。

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

<p>③-2 ・本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業に依頼して企業現場における課題を本校のPBL課題として取り上げ、企業の担当者と連携しながら学生の教育に取り組む新しいコンテンツを開発する。 ・地域連携アカデミアの会員企業に学生のインターンシップの国内外での受け入れを依頼する。</p>	<p>③-2 ・専攻科インターンシップにおいて、「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業6社と、他の地元の企業数社に依頼して企業現場における課題をテーマに実践的な実習に取り組んだ。 ・また、本科プロジェクト演習にて「地域連携アカデミア」の会員企業2社、専攻科創造デザイン演習においても会員企業1社と地域企業1に依頼し、地域に関するテーマを課題として取り上げ、最終報告会にて企業技術者からのアドバイスを受けた。</p>
<p>③-3 高専機構主催の情報担当者研修会に積極的に参加し、学生がマイクロソフト365をはじめとするICTシステムを安全に使えるように指導力を向上させるとともに、多要素認証などセキュリティを高める仕組みを導入し、学生が自らセキュリティに関心を持つように指導する。</p>	<p>③-3 ・マイクロソフト365の多要素認証の全学生への導入時には、単なる手順だけではなくなぜこのような仕組みが必要なのかを説明することで、不正アクセスから身を守るための方法について意識を高めた。 ・特に1年生は初めてIDパスワードを与えられるに際し、認証のみならず権限の適切な付与(認可)や、なりすましなどのセキュリティ上の懸念を講義してIDパスワードの管理の重要性を意識させることができた。</p>
<p>④ 長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力するとともに、有機的な連携を推進していく。</p>	<p>④ ・アドバンスコースの登録学生は0名である。 ・協働科目による授業については、(前期)英語特講:40名、日本語表現演習:40名、実施日:4月16日、4月23日、4月30日、9月24日(英語特講のみ受講)の4回、(後期)数学特講:28名、実施日:10月1日、10月8日、10月22日、10月29日、11月5日、11月12日、11月19日の7回。</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等 ① ・外部カウンセラーの在校時間を前年度並みに維持する。 ・県特別教育支援センターや就労支援機関など外部機関との連携を進める。 ・スクールソーシャルワーカーの採用について検討する。 ・学外講師による、メンタルヘルス、自殺予防、いじめ対策、障害者支援などに関する講演会、研修会を企画する。 ・業務が急激に煩雑、多忙化しているためオンライン活用した業務効率化を進める。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ① ・外部カウンセラーのニーズが高まっているため、今年度から試験的に、夏季休業、春季休業中に来校してもらうことにした。今年度の実績はカウンセラー2名が交替で28日出校だった。高い稼働率のため、来年度も継続的にやりたい。 ・特別支援対象学生(5年生・発達障害)の就労支援を、県発達障害支援センターの協力のもとに行い、無事就職することができた。 ・東海北陸地区学生支援連絡協議会、心の問題と成長支援ワークショップ、学生支援教職員研修等、各種研修に参加し、他高専、他教育機関における支援状況、カウンセラー、ソーシャルワーカーの登用状況についてヒアリングを行った。また、個別に岐阜高専との意見交換を行った。 ・相談室主催の研修会として、Hyper-QU講座(9月)、ハラスメント研修(外部講師・2月)を実施した。 ・相談室業務におけるTeamssの活用推進。</p>
<p>② ・昨年度より始まった新たな奨学金制度について、学校全体の情報共有を図るとともに、学生や保護者に向けた適切な情報公開に努め、より円滑に運用をする。 ・各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、ホームページや掲示板などのメディアを活用して、学生により効率的に提供する。</p>	<p>② ・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板(電子掲示板を含む)で周知するとともに担任を経由して学生に情報を提供した。 ・日本学生支援機構奨学生は前期給付奨学生が47名、後期給付奨学生が46名、他貸与奨学生が17名、その他の奨学生は23名であった。また、入学料免除許可者は2名、前期授業料免除対象者は、全額免除が延べ25名、2/3免除が延べ10名、半額免除が延べ4名、1/3免除が延べ11名であった。後期授業料免除対象者は、全額免除が延べ19名、2/3免除が延べ18名、半額免除が延べ5名、1/3免除が延べ8名であった。 ・卓越した学生については後期分の全額免除は2名であった。</p>
<p>③ ・低学年から高学年まで、学年毎にキャリアガイダンスなどを実施し、学年進行に応じたキャリア形成を行う。(卒業生による先輩講座の実施による進路決定までの道筋を例示など。) ・「全国高専共通利用型進路支援システム」による就職、進学の情報、さらに校内ネットワークの「進路情報フォルダ」内に求人票や帰校届などの情報が提供されていることを周知し、利用を促す。特に「進路情報フォルダ」の内容はキャリア支援室で随時更新を行う。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報をキャリア支援室にて統括する。就職、進学の主な相談先である本科学級担任、専攻科専攻主任間、さらにキャリア支援室の連携を図るため、キャリア支援委員会、各学年会会議などを活用する。 ・キャリア教育セミナー(合同企業説明会)、専攻科・大学・大学院合同説明会を開催する。 ・本科4年生、専攻科1年生向けにインターンシップ事前講座、就職対策講座を実施する。 ・女子学生向けのキャリア形成講習会を実施する。 ・卒業生による先輩講座や、在校生による先輩フォーラムを実施のため、本校同窓会(進和会)との連携の体勢を整備する。</p>	<p>③ ・学年進行に応じたキャリア形成として、キャリア関連の講座を1年生は5月と11月、2年生は7月に実施した。県内企業を研修先として、2年生は10月に校外研修を1日間、3年生は11月に研修旅行を1泊2日(当初予定は県外中心に3泊4日より短縮)で実施した。 ・校内ネットワークの「進路情報フォルダ」内に求人票や帰校届などの情報が提供されていることを周知し、十分利用されている。「全国高専共通利用型進路支援システム」のサービスが終了するため、新システム「学内進路支援サイト」への移行をした。 ・求人やインターンシップ、進学に関する情報をキャリア支援室にて統括している。キャリア支援委員会を活用し、本科学級担任、専攻科専攻主任間、さらにキャリア支援室と連携した。 ・専攻科・大学・大学院合同説明会を10月に、キャリア教育セミナー(合同企業説明会)を3月に実施した。いずれも新型コロナウイルス感染拡大を予防するため、オンラインで実施した。 ・本科4年生、専攻科1年生向けにインターンシップ事前講座と進学者向けガイダンスを7月に、就職対策講座を2月に実施した。また、女子学生向けのキャリア形成講習会としてメイク講座を7月に実施した。 ・2年生対象に7月に実施した講座では、本校同窓会(進和会)と講師の派遣で連携した。</p>

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

<p>1. 2 社会連携に関する事項 ① ・企業等との共同研究の成果などについて、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」をはじめ、本校ホームページや外部メディアなどに積極的に発信する。 ・テクノセンターのホームページを見直し、より広く地域社会に発信する。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備などについて情報共有を進める。</p>	<p>1. 2 社会連携に関する事項 ① ・12月15日(水)に鯖江市嚮陽会館で開催のJOINTフォーラムにおいて、本校で取り組んでいる社会的な課題に対する成果および、実施している企業等との共同研究、教職員間の連携研究、専攻科生のPBL授業での取り組みについて発信し、その様子を本校ホームページに掲載した。 ・第3ブロックに属する他高専のテクノセンターとの連携は第3ブロック拡大研究推進ボード会議を通して行っており、地域連携や研究推進に関する研究者情報や研究設備などについて情報共有した。2月25日に実施された第3ブロック第2回拡大研究推進ボード会議に続く地域連携活動発表会にて、本校地域連携テクノセンターの取り組みを紹介した。</p>
<p>② ・地元の企業との共同研究の掘り起こしのために、本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」を活用する。 ・毎年12月に行っている本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」においてその成果の一部を積極的に学外発信する。 ・越前市・鯖江市が催す産業フェアにおいて、本校の活動を広く発信する。</p>	<p>② ・12月15日に開催したJOINTフォーラムにおいて、地域と連携した取り組みを3件、本校で実施されている共同研究事例を4件、専攻科生の開発事例を7件発表した。また、教職員の研究シーズについても19件発表し、「地域連携アカデミア」との共同研究の掘り起こしに努めた。産学連携、研究推進、知的財産に関する専門家のリサーチアドミニストレーターを3名継続して任用し、積極的な活動により、共同研究の受入れ促進を鋭意図った。 ・10月に開催の北陸技術交流テクノフェアにて、専攻科生の研究シーズを30件発表し、本校活動の広報に努めた。</p>
<p>③-1 ・報道関係者との懇談の機会を設けるなど、報道関係者との良好な関係構築に取り組む。 ・地域コミュニティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続ける。また、地方雑誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供していく。 ・イベントやニュースを、高専として窓口を総務課に一括しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達する。 SNSを活用した情報発信を進めるとともに、動画サイトを活用した広報活動を行うために必要な規則の整備などを検討する。</p>	<p>③-1 ・地域コミュニティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会に情報発信する取り組みを継続して行っており、今年も4月から10月までの期間に27回の放送を行った。 ・「高専初！5G基地局設置記念イベント」や「福井高専ジュニアドクター育成塾(クラフテックラボ)の開校式」のイベント開催の情報など、報道メディアに積極的に広報した。</p>
<p>③-2 ・本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を年末に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する。 ・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて社会に発信する。</p>	<p>③-2 ・6月8日に本校の産学連携関係冊子「JOINT2021」を発行した。 ・学内の研究設備を紹介する冊子「ラボガイド」を学外に積極配布し、関連設備の外部利用や共同研究の推進につながるよう努力している。 ・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を本校ホームページや報道機関への情報提供等を通じて社会に発信している。</p>
<p>1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・従来の国際連携や留学生等の受け入れを発展させる形で、校長のリーダーシップの下、支援・協力を進める。</p>	<p>1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・校長のリーダーシップの下での国際連携や協力活動については継続的に検討しているが、コロナ禍がまだ終息しておらず、思うような成果を出せていない。</p>
<p>①-2 ・モンゴル高専との連携・支援策を模索する。</p>	<p>①-2 ・コロナ禍の中、モンゴル高専との連携や支援策を模索中である。</p>
<p>①-3 ・タイ高専との連携・支援を積極的に模索する。</p>	<p>①-3 ・コロナ禍の中、タイ高専との連携や支援策を模索中である。</p>



<p style="text-align: center;">令和3年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>	<p style="text-align: center;">令和3年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>
<p>①-4 ・ベトナム高専との連携・支援策を模索する。</p>	<p>①-4 ・コロナ禍の中、ベトナム高専との連携や支援策について模索中である。</p>
<p>①-5 ・国際寮の設置に向けて、本校の国際化の取組を具体化する。</p>	<p>①-5 ・国際寮の建設工事が進んでいるが(コロナ禍の影響により工事が若干遅れがち)、寮や国際交流室など学内組織が協力する形で具体的取り組みについて検討を始めた。</p>
<p>② ・高専機構本部の国際化への取組に積極的に参加する。 ・ISATE2021への教員の積極的な参加を働きかける。</p>	<p>② ・高専機構本部の国際化(タイ高専)事業に電気電子工学科教員1名を推薦した。 ・ISATE2022への教員の参加について学内周知した。 ・昨年延期となっていたISATEがオンラインにて開催され8/18本校教員原口治教授が発表を行った。</p>
<p>③-1 ・本校の国際化を推し進めるために、高専機構本部の事業に参加する体制を整える。 ・海外の教育機関との交流を推進する。 ・様々なコミュニケーションツールを利用した各種海外研修プログラムの充実を図る。</p>	<p>③-1 ・コロナ禍ではあるが、ZOOMなど様々なコミュニケーションツールを活用してPSU工学部など海外の提携機関などとの交流を積極的に推進した。 ・4/17および10/2にテキサス大学オースティン校とオンライン会議システムを利用し交流を行った。</p>
<p>③-2 ・TOEICや英検へのチャレンジを支援すると共に、海外研修の機会を提供する。 ・イングリッシュカフェ(英語科と共同開催)や報告会などを実施する。</p>	<p>③-2 ・コロナ禍ではあるが、校内でのTOEICや英検へのチャレンジを学生に対して継続的に奨励した。 ・コロナ禍により昨年中止となった4年生対象のTOEICIP一斉受験を再開、5/17に実施した。引き続き各種英語検定試験受験の学習支援を行っている。併せてTOEIC賛助会員の公開テスト受験料割り引きなどの支援も行っている。</p>
<p>③-3 ・トビタテ! 留学JAPANに学生を応募させる。(再掲) ・ISTS2021に学生を応募させる。(再掲)</p>	<p>③-3 ・トビタテは2021年度は新規募集なしのため応募できなかった。(再掲) ・ISTS2021は、今年開催されなかった。(再掲)</p>
<p>④-1 ・外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。 ・国際的な広報活動として、本校ホームページの英語版の作成を進める。</p>	<p>④-1 ・ホームページの英語版、改訂を継続する。</p>
<p>④-2 ・協力できるように学内の調整を図っていく。</p>	<p>④-2 ・受入れの体制づくりについて検討した結果、受け入れ困難との結論に達した。</p>
<p>⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行う。</p>	<p>⑤ ・随時在籍確認を行った。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 ・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 ・「令和3年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。</p>

<p style="text-align: center;">令和3年度 年度計画 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>	<p style="text-align: center;">令和3年度年度計画 実績報告 (高専名: 福井工業高等専門学校 )</p>
<p>2.3 契約の適正化 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性の確保を図る。 ・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。</p>	<p>2.3 契約の適正化 ・一般競争契約15件について実施し、仕様策定により透明性や競争性の向上を図った。 ・北陸3高専の共同調達1件により、一層のコスト削減、効率化を図った。</p> <p>(設計、工事) 令和3年度について下記の事業における予算執行について適切に行った。なお、学生寮整備事業については、次年度に繰越となった。 ・学生寮整備事業・・・次年度に繰越。 ・武道場整備事業・・・工事完了。</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・「令和3年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分として54件16,344千円を配分した。</p>
<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・「令和4年度科学研究費助成事業(科研費)公募要領等説明会」へ研究推進委員会委員を派遣する(9月)。 ・教員の科研費申請率・採択率・獲得額向上のために、「令和4年度科研費申請事前調査」を実施すると共に(5月)、科研費獲得のための講習会等を開催する(6月-9月)。 ・全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供(メール配信・学内Webサイト公開・説明会等開催)を継続実施する(随時)。 ・教員の研究力の質的向上と科研費等外部資金獲得に向けた産学官連携共同研究プロジェクト推進及び研究計画調書査読体制の構築・整備と円滑運用を図る。</p> <p>・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数の増加に引き続き努力し、寄附金のさらなる獲得につなげる。 ・複数のコーディネーターとの連携を深め、教職員の保有する教育研究シーズの把握、活用し共同研究等を推進するとともに、公募型の競争的資金に挑戦する。 ・福井県ふるさと納税を活用する。</p>	<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・教員の科研費申請率・採択率・獲得額向上のための「令和4年度科研費申請事前調査」を5月に実施し、科研費獲得のための講習会等を5月と6月に、それぞれ開催した。 ・全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報は、随時、継続して掲示板等を介して提供した。 ・教員の研究力の質的向上と科研費等外部資金獲得に向けた産学官連携共同研究プロジェクト推進及び研究計画調書査読体制を構築・整備した。</p> <p>・機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行った。リサーチアドミニストレーター(産学連携担当)が学内教員55名、技術職員13名のシーズと展開について調査を実施した。リサーチアドミニストレーター(研究推進担当)が関係する教職員へ個別に連絡を取り、25名の教職員に対して、申請に向けた支援や添削を行った。 ・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数が増加し、109社となった。また、将来的な企業からの寄附金の獲得を目的として、高専高度化推進経費事業にて学際連携研究に対する支援プロジェクトにより、4名に各20万円の支援を実施した。</p>
<p>7. 剰余金の使途 ・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生への充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。</p>	<p>7. 剰余金の使途 ・令和3年度決算において、剰余金は発生しなかった。</p>
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1 ・「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」(令和3年3月決定予定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、福井高専における高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について、計画的に予算要求を行う。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1 ・施設整備事業について、機械実習工場及び総合情報処理センターの各事業について交付決定通知を受けた。次年度に向けて、工事に係る学内調整を図る。</p>
<p>①-2 ・建物外壁及び工作物の非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、立入禁止等の処置を行い、早期に補修を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。</p>	<p>①-2 ・学内点検を行った際に階段部分の一部にひび割れが発見されたので、直ぐに立入禁止処置を行い、補修対策を実施した。今後も引き続き、点検等を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。</p>
<p>② ・実験・実習開始当初に「実験実習安全必携」を配付し、安全教育を行うことを徹底する。 ・就業環境について、定期的に現場点検を実施し、安全衛生委員会で危険箇所、ヒヤリハットの情報共有を行う。</p>	<p>② ・実験・実習開始当初に「実験実習安全必携」の配付した。また、シラバスに安全教育を行うこと明記し、実習時に安全教育を実施した。 ・安全衛生委員会にて就業環境の巡視点検を月1回実施し、危険箇所の把握と状況改善を継続的に行った。委員会において、危険箇所、ヒヤリハットの情報共有を実施した。 ・11月に溶接ヒューム濃度の測定を実施した。</p>

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

<p>③ ・科学技術分野への男女共同参加を推進するため、女子学生・女性教職員が使用するトイレにおいて和式の箇所を計画的に洋式に改修し、修学・就業上の環境整備を推進する。</p>	<p>③ ・物質工学科(新)棟の1階の女子便所は、和式トイレ(2か所)となっているので、そのうちの1か所を洋式トイレへの改修を実施し、女子学生・女性教職員の修学・就業上における施設環境を整備した。(再掲)</p>
<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、以下のような外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。 ・課外活動指導員の制度と従来の外部コーチの制度を併用し、指導教員B制度とともに活用することで、指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援する。 ・退職や再雇用の教員のご支援を得て、現職教員の日直業務従事回数の軽減が数年来実施されている。この制度を本年度も継続する。 ・宿日直業務の外部委託制度策定し、実現を目指す。</p>	<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① ・部活動、同好会活動の実態調査を行い、部活動の精査(整理)を行うとともに、顧問の再配置などを行うことで、教員の負担軽減を推進している。 ・昨年度から開始した課外活動指導員は2名である。外部コーチ7名と併せて、指導教員の負担を効率的に軽減させ、部活動の円滑な運用を支援している。 ・退職や再雇用の教員の支援を得て、現職教員の日直業務従事回数の軽減が数年来実施されており、この制度を本年度も継続した。 ・宿日直業務の外部委託制度を策定し試行した。</p>
<p>② ・校長裁量枠を設定し活用することで、戦略的かつ弾力的な教員配置を行う。 ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の改善と質の向上に努める。</p>	<p>② ・校長裁量枠活用による早期の人員補充を目的として、今後退職者の生じる専門科目、一般科目教室の教員公募を実施した。選考の結果、令和3年度末に退職者が生じる一般科目教室2名については採用できたが、令和5年度末退職予定の前倒し補填を目指した専門科目教員につ採用辞退となったため、公募を継続して実施している。 ・高専・両技科大間の交流制度について学内で周知を徹底したが、令和3年度は希望者がいなかった。</p>
<p>③ ・特別流用を利用した校長裁量枠を活用することで、学校の運営戦略に即した弾力的な教員を配置を行う。 ・標準人員枠に対し、特例流用を活用することにより若手教員を確保し、人材の長期育成を図る。</p>	<p>③ ・校長裁量枠活用による早期の人員補充を目的として、今後退職者の生じる専門科目、一般科目教室の教員公募を実施した。選考の結果、令和3年度末に退職者が生じる一般科目教室2名については採用できたが、令和5年度末退職予定の前倒し補填を目指した専門科目教員につ採用辞退となったため、公募を継続して実施している。(再掲) ・特例流用を活用することにより、若手教員枠を増やし、人材の長期的視野での育成を可能なものとしている。</p>
<p>④-1 ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることと共に、社会的経験も考慮した選考を行う。</p>	<p>④-1 ・令和3年度に実施の専門科目担当教員の公募応募資格について、博士の学位を有すること又は採用時まで取得見込であることを明記した。また学識と技術を持つとともにものづくり経験があることを応募資格とした。</p>
<p>④-2 ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の利用を働きかける。【再掲】</p>	<p>④-2 ・学内会議の場でクロスアポイントメント制度について説明を実施し、各学科、一般科目教室に対し希望の有無の確認を実施したところ、令和3年度については希望がなかったが、令和4年度以降については教員人員枠を慎重に確認しながら、希望があった場合は活用を検討する。</p>
<p>④-3 ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。【再掲】</p>	<p>④-3 ・労使協定により1年単位の変形労制を締結し、業務の繁忙や生活サイクルに応じた勤務時間制度の活用を職員に促した。 ・機構本部主導で実施の同居支援プログラム、高専間異動希望制度について、人事労務係を通じ教職員に十分周知した。 ・物質工学科(新)棟の1階の女子便所は和式トイレ(2か所)となっているので、そのうちの1か所を洋式トイレへの改修を実施し、女子学生・女性教職員の修学・就業上における施設環境を整備した。(再掲)</p>
<p>④-4 ・外国語の授業では、ネイティブな教員を配置するように努める。【再掲】</p>	<p>④-4 ・コミュニケーションという授業科目でネイティブな教員(常勤および非常勤)を配置した。</p>
<p>④-5 ・機構本部から送られてくる、シンポジウム、研修会、ニューズレターを学内に配付等して、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を継続的に図る。</p>	<p>④-5 ・企画推進室において男女共同参画など関係情報の取り纏めおよび学内周知を担当し、適宜適切に進めた。</p>

令和3年度 年度計画  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

令和3年度年度計画 実績報告  
(高専名: 福井工業高等専門学校)

⑤ 高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、新型コロナウイルス感染症対策に留意した上で、教員及び事務・技術職員を対象とした実地、オンライン等各種の研修会に参加させ、一層の資質向上を図る。

⑤ 高専・両技科大の教員交流制度について、令和3年度において利用を希望する者はいなかった。各種研修会について、令和3年度中旬以降、新型コロナウイルス感染症がやや収まる傾向があり実施されるものが複数あったため、積極的に教職員を参加させ、知識修得及び資質向上を図った。

<教育職員>

- ・令和3年度高等専門学校新任教員研修会に教員6名が参加した。(令和3年6月初旬から下旬にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度高等専門学校中堅教員研修に教員2名が参加した。(令和3年9月中旬から3月にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度高等専門学校教員研修(管理職研修)に教員2名が参加した。(令和3年12月21日にハイブリッド形式で実施、本校はオンラインで参加)
- ・令和3年度女性管理職育成研修に教員2名が参加した。(令和3年3月にオンライン(録画受講)で実施)

<事務職員・技術職員>

- ・令和3年度国立高等専門学校機構新任校長・新任事務部長研修会に事務部長1名が参加した。(令和3年4月28日にオンラインで実施)
- ・令和3年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会に事務職員1名が参加した。(令和3年5月～9月中旬にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修に技術職員2名が参加した。(令和3年8月25日～27日 富山高専)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修に事務部長1名が参加した。(令和3年10月4日 金沢大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月1日 福井大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等初任者研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月8日 金沢大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月25日 福井大学)
- ・令和3年度国立高等専門学校機構若手職員研修会に事務職員1名が参加した。(令和3年1月31日～2月2日にハイブリッド形式で実施、本校はオンラインで参加)

<全教職員対象>

- ・ハラスメント防止に関する研修(令和3年9月30日付け高専機構本部通知によるもの。学内でオンラインで実施し、全教職員が受講)

(2) 人員に関する指標  
・常勤教職員について、各種研修などを利用し、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。

(2) 人員に関する指標  
研修について、令和3年度中旬以降、新型コロナウイルスがやや収まる傾向があり開催状況が改善した為、積極的な教職員の参加を促し、知識、資質の向上を図った。

<教育職員>

- ・令和3年度高等専門学校新任教員研修会に教員6名が参加した。(令和3年6月初旬から下旬にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度高等専門学校中堅教員研修に教員2名が参加した。(令和3年9月中旬から3月にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度高等専門学校教員研修(管理職研修)に教員2名が参加した。(令和3年12月21日にハイブリッド形式で実施、本校はオンラインで参加)
- ・令和3年度女性管理職育成研修に教員2名が参加した。(令和3年3月にオンライン(録画受講)で実施)

<事務職員・技術職員>

- ・令和3年度国立高等専門学校機構新任校長・新任事務部長研修会に事務部長1名が参加した。(令和3年4月28日にオンラインで実施)
- ・令和3年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会に事務職員1名が参加した。(令和3年5月～9月中旬にかけてオンラインで実施)
- ・令和3年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修に技術職員2名が参加した。(令和3年8月25日～27日 富山高専)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修に事務部長1名が参加した。(令和3年10月4日 金沢大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月1日 福井大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等初任者研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月8日 金沢大学)
- ・令和3年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した。(令和3年11月25日 福井大学)
- ・令和3年度国立高等専門学校機構若手職員研修会に事務職員1名が参加した。(令和3年1月31日～2月2日にハイブリッド形式で実施、本校はオンラインで参加)

<全教職員対象>

- ・ハラスメント防止に関する研修(令和3年9月30日付け高専機構本部通知によるもの。学内でオンラインで実施、全教職員が受講)

事務部の人員配置については、各課、系の業務量の把握を行い業務の効率化を図りつつ、研修での職務能力向上を加味して検討した。事務情報化推進室等の主導のもと、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)の研修会が事務及び技術職員を対象に学内で継続して開催され、各部署で業務効率化実現の検討、取り組みが実施された。

<p style="text-align: center;"><b>令和3年度 年度計画</b> <b>(高専名： 福井工業高等専門学校 )</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>令和3年度年度計画 実績報告</b> <b>(高専名： 福井工業高等専門学校 )</b></p>
<p>8. 3情報セキュリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人の情報セキュリティポリシーを踏まえて、情報セキュリティに関する監査などの結果に基づき改定した学内情報セキュリティに基づきPDCAを定着させる。</li> <li>・学内のパソコンやネットワーク機器のネットワークへの接続状況や、OSの更新やファームウェアの更新などの状況を情報共有する仕組みを徹底させ、不審なソフトウェアの侵入などのネットワークを経由した攻撃への備えを継続維持する。</li> <li>・全教職員の情報セキュリティに関する意識向上を図るために、情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール対応訓練等への参加を定着させる。</li> <li>・高専機構のCSIRTなどの発信するインシデントの予兆やインシデント対応の情報を、タイムリーに学内で情報共有し、インシデント発生時の初期対応である「すぐやる3箇条」の徹底を継続させる。</li> </ul>	<p>8. 3情報セキュリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和1年度セキュリティ監査(C)を受け令和2年度には、セキュリティ規定類の改訂(A)を実施した。令和3年度においてはその規定に基づいて(P)ネットワーク運用とシステム運用(D)を実施中である。</li> <li>・ASETBASEおよびAPEXOneのインストールについて、OSの更新は毎年最低1度は直接全教員に向けてインストールとアップデートの重要性を注意喚起している。</li> <li>・標的型メールが学内で受信された場合には、安易に添付ファイルを開かぬようにその時々状況に応じて注意喚起をした。</li> <li>・学内LANとSINETとの接続点にあるFortiGate社FWのバージョンアップは特に重要視しており、緊急アップデート時には放課後時間等を利用して早急な対応を実施した。</li> <li>・新入生、新任教職員のオリエンテーション研修において、すぐやる3箇条とその中に含まれる緊急連絡先の周知を実施した。</li> <li>・北陸地区セキュリティ研修に教員1名を派遣した。</li> </ul>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のリーダーシップのもと、学校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的な会議開催を行う。</li> </ul>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に対する本校の方針を協議するため、危機対策本部会議を24回開催して、学校としての意思決定を行い、教職員や学生に方針を示した。</li> </ul>
<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図ると共に、学校としての課題や方針の共有化を図る。</li> </ul>	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に学校運営会議を開催(16回)し、学校としての課題や方針の共有化を図った。また、教員会議を開催(14回)して全教員に対して意識共有の場を設け、有効に活用した。</li> </ul>
<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学校運営及び教育活動等の特徴を活かし、魅力の創出を諮ると共に、各種会議を通じてその情報の共有化を図る。</li> </ul>	<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新しく始まった福井高専ジュニアドクター育成塾(クラフテックラボ)は全校を上げての取組であり、学校運営会議はもちろん学内の各種会議を通じて情報共有化を図った。</li> </ul>
<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校として、法人全体の共通課題に対応する。</li> </ul>	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人全体に係る共通課題については、学校運営会議等において議論され、学校としてのマネジメント対応に努めた。会議形式においても、感染状況を勘案しウェブ会議での実施を行うなど、環境整備としてコロナ対策を図った。</li> </ul>
<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を図る。</li> </ul>	<p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス・マニュアルを常時共有ファイルで閲覧できるようにし、教職員個々人のコンプライアンスの向上に努めた。また、毎年(例年12月から翌年2月)行うコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して意識向上を図った。</li> </ul>
<p>②-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部と学校との十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。</li> </ul>	<p>②-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティインシデント関連の事例など、本部との速やかな情報共有を行いながら、対応にあたった。</li> </ul>
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査等で発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。</li> <li>・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況を維持する。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査等で発見した課題については、関係者で情報を共有し、解決を図った。</li> <li>・令和3年度高専相互会計内部監査として、令和3年11月22日、富山高等専門学校から監査を受け、また、同年11月26日、阿南工業高等専門学校から監査を行い、併せて両校と会計事務関係等の情報交換を行った。また、令和4年1月に、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めた。</li> <li>・令和4年3月4日、令和3年度会計監査法人による監査において、適正な財務諸表を作成するための指導を受けた。</li> </ul>
<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のコンプライアンス意識涵養のために講習会や注意喚起を行う。</li> <li>・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教職員オリエンテーション(令和3年4月1日)開催時に、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>・研究推進委員会(令和3年4月7日)及び、教員会議(令和3年4月21日)において、公的資金の適正な管理及び執行について、総務課長から周知を行った。</li> <li>・全教職員を対象としたコンプライアンス講習会として、機構本部から配信されている「公的研究費の不正使用の再発防止」に向けた内容の録画視聴を行い(期間:令和3年7月21日~8月23日)、併せて「理解度チェックのためのアンケート」を実施した。</li> <li>・機構本部主催の「会計監査法人によるコンプライアンス研修会(teams会議:令和4年3月3日)において、有限責任監査法人トーマツによる、公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修会が開催され、総務課財務系職員(8名)が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>・機構本部より、「公的研究費の不正防止」に向け、定期的にメールを活用した啓発活動が実施され、公的研究費の不正防止に関する高い意識をもってもらうよう学内全教職員に周知した。</li> </ul>
<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の年度計画を定め、本校の管理運営、教育研究を実施する。また、副校長、主事、各種委員会委員長は、年度当初の教員会議にて年度計画等の所信表明を行い、本年度の活動方針を全教員で確認する。</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の中期計画および年度計画を踏まえ本校の年度計画を定めた。また、副校長、主事、各種委員長が年度当初の教員会議で年度計画等の所信表明を行った。</li> </ul>